

令和4年度
劇場・音楽堂等機能強化推進事業
(地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)
成果報告書

団 体 名	公益財団法人横須賀芸術文化財団	
施 設 名	横須賀芸術劇場	
助 成 対 象 活 動 名	人材養成事業・普及啓発事業	
内 定 額 (総 額)	6,843	(千円)
	0	(千円)
	2,024	(千円)
	4,819	(千円)

(2) 令和4年度実施事業一覧【人材養成事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	第9回 野島 稔・よこすかピアノコンクール	令和4年5月16日 (月)～22日(日)	<審査日程> ●第1次予選(出場者108名) 5月16日(月)～18日(水) ●第2次予選(出場者25名) 5月19日(木)～20日(金) ●本選・表彰式(出場者8名) 5月22日(日) <審査委員> 梅津時比古(審査委員長代行) 東 誠三、伊藤 恵、上野 真 <審査方法>	入場者数 (延べ) 1,270名 /参加者 数90名 (応募者 数)	
		よこすか芸術劇場	●第1次予選 指定された課題曲2つのカテゴリ から各1曲以上選択し、合計8～10分 の演奏を審査する。 ●第2次予選 指定されたベートーヴェン ピアノ ソナタ15曲のうち1曲選択し、全楽 章の演奏を審査する。 ●本選 自由に選択したプログラムの合計35 分～40分の演奏を審査する。	入場者数 (延べ) 1,464名 /参加者 数112名 (応募者 数120 名)	

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

(3) 令和4年度実施事業一覧【普及啓発事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	第13回米海軍第7艦 隊バンド&横須賀交響 楽団フレンドシップ・ コンサートアメリカ ン・サウンド・イン・ ヨコスカ	-	-	目標値	参加者数:123名 (出演者) 入場 者数:1,089名
		-		実績値	※要望取下げ

2	令和4年度 横須賀芸術劇場少年少女合唱団活動	<p>[活動期間] 令和4年4月7日～ 2023年3月30日 [サマー・コンサート '22] 令和4年7月17日 [クリスマス・コンサ ート '22] 令和4年12月18日</p>	<p>[サマー・コンサート] [クリスマス・コンサート] 出演：横須賀芸術劇場少年少女合唱団 指揮：洲上千里、廣橋英枝 ピアノ：水戸見弥子</p>	目標値	<p>参加者数：123名 (団員120名、指導者3名) 入場者数：1,710名 (サマー・コンサート855名、クリスマス・コンサート855名)</p>
		よこすか芸術劇場		実績値	<p>参加者数：118名 (団員115名、指導者3名) 入場者数：1,271名 (サマー・コンサート506名、クリスマス・コンサート765名)</p>
3	令和4年度 横須賀芸術劇場合唱団活動	-	-	目標値	<p>参加者数：287名 (指導7名、合唱団200名／オーケストラ80名)入場者：1,089名</p>
		-		実績値	※要望取下げ
4	劇場オープンデー／バックステージツアー／子どものための劇場裏側探検ツアー	<p>[オープンデー] 令和4年5月4日 [バックステージツアー] 令和4年6月15日 令和5年3月22日 [子どものための劇場裏側探検ツアー]</p>	<p>[オープンデー] 一般市民の文化活動団体、声楽ワークショップ：梅沢一彦(講師／声楽家)、松本康子(ピアニスト)、児童合唱体験ワークショップ：廣橋英枝(講師／声楽家)、水戸見弥子(ピアニスト)、地元演奏家ミニコンサート：ジョーズ・クインテット、リズム遊び：飯田和子(講師)、小島智美、北島恵美(助手)、</p>	目標値	<p>参加者数1,030名 (オープンデー-舞台発表400名、WS他イベント参加者420名、バックステージツアー210名)／入場者：1,100名</p>

		よこすか芸術劇場	光のダンスワークショップ：新井英夫 [バックステージツアー] 劇場スタッフによる参加型 劇場バックステージツアーを実施	実績値	参加者数 924 名 (オーディエンス-舞台発表 177 名、WS 他イベント参加者 537 名、バックステージツアー- 210 名) ／入場者：1,200 名
5	令和4年度アーティスト派遣事業	①ジャズ 令和4年10月4日 令和4年11月8日 ②クラシック (ピアノ) 令和4年11月17日 ③能 令和4年6月14日 令和4年7月1日	① 宮脇惇 (クラリネット)、後藤沙紀 (ピアノ)、長谷川蕙人 (ベース)、大江航平 (ドラム) 計4名 内容：ジャズの街・横須賀の歴史についてのレクチャー、実演、生徒との合奏。 ②橋本峻平 (ピアノ) 内容：クラシック曲の演奏のほか、ピアノやペダル、曲目などの説明も行った。	目標値	参加者数：9名 (音楽6名 (クラシック2名、ジャズ4名)、能3名) 入場者数：700名 (クラシック100名、ジャズ200名×2校、能100名×2校)
		①ジャズ 横須賀市立北下浦小学校 武山中学校 ②クラシック (ピアノ) 横須賀市立森崎小学校 ③能 横須賀市立	③ 観世喜正 (観世流シテ方) 内容：事前配布テキストに沿った能楽の歴史、能舞台、使用楽器などの説明、能のすり足体験、謡の実演、映像鑑賞など	実績値	参加者数：8名 (クラシック1名、ジャズ4名、能3名) 入場者数：938名 (鑑賞者数 クラシック106名、ジャズ650名、能182名)

6	ヨコスカ ジャズドリームス ライブ・シリーズ	①令和4年7月23日 ②令和4年10月29日 ③令和4年11月5日 ④令和4年12月24日	①VOL.1 中村誠一 & 紗理 THE STOMPERS / 花岡詠ニクアルテット ライブ [出演] 中村誠一 (Ts/GI)、紗理 (Vo、ダンス)、戸山雄介と THE STOMPERS (ダンス)、花岡詠ニクアルテット: 花岡詠ニ (GI)、武田将 (Vib)、山本琢 (Pf)、竹内武 (Ds) ②近隣商業施設内でのジャズ・ライブ [出演] 平賀マリカ (Vo)、田辺充邦 (G)、増原巖 (B)、力武誠 (Ds)	目標値	参加者数: 42名 (①22名②1名③14名/商業施設5名) 入場者数: 1,106名 (①289②329③289名/商業施設200名)
		①③④ ヨコスカ・ベイト・ホケット ②横須賀 HUMAX シネマズ Movive Theatre	③VOL.2 桑原あい ソロ・ピアノライブ [出演] 桑原あい (Pf) ④VOL.3 ローランド・ジャズ (Lowland Jazz/ビッグバンド) クリスマス・ライブ [出演] ローランド・ジャズ (ビッグバンド)	実績値	参加者数: 41名 (①22名②4名③1名④14名) 入場者数: 1,245名 (①382②166③289名④408名)

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

2. 自己評価

(1) 妥当性

自己評価

社会的役割等（ミッション）や地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。

横須賀芸術劇場は、芸術文化の賑わいの拠点として、潤いある豊かな市民生活と地域社会を実現する社会的役割を持っています。当財団では、その役割を果たすために4つのビジョン「創る・発信する」「集う・交わる」「育む・支える」「つながる・応える」を掲げ事業を実施しています。助成対象の「人材養成事業」「普及啓発事業」は、これらのビジョンや地域の特性をふまえて、当財団が継続的に事業企画制作・運営してきました。入場料収入等が目標値を超えたことや、経費が安価に抑えられたことなどもあり、結果的に助成対象経費（申請額の）75%となりましたが、内容的には4つのビジョンに従い劇場の社会的役割を継続的に果たすことができたと考えます。

《人材養成事業》

【事業番号1】：開催前に審査委員がコンクールの取り組みや課題曲を解説するプレイベントを開催し、聴衆や参加者の理解を助ける試みを実施した効果もあり、第一次予選から本選まで多くの来場者が訪れ、出場者も大幅に増加しました。また参加者が審査委員のアドバイスを訊ける個別面談、ファイナリストへのコンクール終了後の審査員との個別レッスンの提供、「聴衆賞」の新設など、参加者のステップアップへの機会も提供できました。

《普及啓発事業》

【事業番号2】：年間活動では、感染症の拡大防止対策として、対面レッスンのほかに常時リモート（ZOOM）配信や練習の録画動画の活用など、団員が安定して練習に参加できる環境を整備しました。また、2回の定期演奏会は感染症対策を施した上で開催。合唱団員の増加への取り組みの工夫として、練習見学のほかに体験レッスンを設け、従来に比べて入団希望者を増やすことができました（前年11名に対し17名）。

【事業番号4】：市民が気軽に集い、交流する場、舞台・音楽芸術に日常的に親しむきっかけ作りとして、市民の発表の場の提供や、誰でも参加できる体験型プログラムの開催などを行うオープンデーを開催。その他、一般向けおよび子どものための劇場裏側探検ツアーの開催などを通じて、地域のコミュニティの場として「劇場」に親しみをもち、幅広い年齢層のお客様の“劇場”や“舞台芸術”への更なる興味を促すことができました。

【事業番号5】：当初の4校での実施予定でしたが、応募多数のため5校で実施しました。小中学生が伝統芸能やジャズ、クラシックに親しみ、アーティストとの交流を通じて彼らの文化芸術への理解・興味が深まり、心豊かな成長のきっかけ作りに貢献することができました。

【事業番号6】：年間1公演のジャズ公演を3公演に増やし、公演内容もオールドスタイルから若いアーティストを取り上げ、年間を通じて様々なスタイルのジャズに触れられる環境を作りました。また、近隣商業施設内とジャズ・ライブの開催など、これらの効果として、これまでの主な来場世代のシニア層に加え、若い世代やファミリー層といった幅広い世代が来場し、ジャズに親しめる機会を提供できました。

助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。

地域の中核劇場として、横須賀の地域性を活かした質の高い公演実施のほか、近隣商業施設との連携など、街の賑わい創出や地域との協力体制の構築につながりました。また、合唱団活動を対面レッスンの再開に加え、リモート・レッスン等も並行して実施し、安定した練習環境を構築したことや、幅広い年齢層を対象とした事業の企画・制作・運営できたことは、市民が文化芸術を享受できる機会の提供や未来の文化の担い手の育成、潤いある市民生活への貢献につながりました。そして助成金を活用して広報し、事業の認知度向上や実施環境の整備が図れたことによる文化的、社会的、経済的意義は大きいものと考えます。

(2) 有効性

自己評価

目標を達成したか。

【目標達成状況】

《人材養成事業》

【事業番号1】：開催前に審査委員がコンクールの取り組みや課題曲を解説するプレイベントを開催し、聴衆や参加者の理解を助ける試みを実施したことや、教育機関との綿密な連携や助成金を活用した各種広報の効果もあり、第一次予選から本選まで多くの来場者が訪れ、1,270名の来場者目標に対して、1,464名、出場者も90名の参加者目標に対し120名。ともに目標を達成できました。

《普及啓発事業》

【事業番号2】：リモート練習や対面練習、どちらも参加できる体制を整え、団員の意欲を高める工夫をしながら、持続的に練習および演奏活動ができました。計画していた高齢者施設の訪問コンサートが今回も新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止（延べ3年間）となっているため、CD・DVD化したコンサート音源を届けることで、コロナ禍においても合唱活動の地域還元を図りました。また、参加者拡大の工夫を行い、新団員10名以上の獲得目標に対して、17名（対目標値+7名）を達成できました。

【事業番号4】：劇場オープンデーは障がいを持つ方も参加できるワークショップを行い年齢や障がいの有無に関わらず多くの方が劇場での体験や交流を楽しめるプログラムを行うなど充実を図り、目標1,100名に対し、1,200名が来場。目標を達成しました。バックステージツアーについては、施設の見学ツアーに舞台装置の操作など体験を交えるなど募集告知にも工夫した結果、申込目標である実施回全てが定員（一般／全6回：計120名、子ども／全6回：計90名）に達するなど、劇場という文化創造拠点に対する興味の高さが窺えました。

【事業番号5】：能楽ワークショップ（2校）、ジャズ・ライブ（2校）、クラシックコンサート（1校）を実施。小学校での実施のほか、目標である中学校での継続実施を達成（中学校1校・小学校4校）。能楽ワークショップでは、能楽の歴史や所作・礼儀作法、クラシックコンサートのほか、ジャズではプロのミュージシャンの職業に就くまでの努力の過程を自身が語ったほか、それに関する質疑応答も踏まえ、キャリア教育の一端としても本事業を効果的に実施する事ができました。

【事業番号6】：ジャズ公演の回数を増やし（年間1→3公演）、公演内容もオールスタイルな内容から若手アーティストによるカジュアルな内容まで取り上げ、幅広い年代が楽しめる・選べるバリエーションを用意したことで、入場率70%以上の目標に対して、75%。20代から40代の来場者の5%増加目標に対しては16%。ともに目標を達成できました。

また、地元の商業施設の映画館と連携を図り、映画館を会場とした、映画チケット付きジャズ・ライブを開催し、地域とともに戦後ジャズ発祥の地・横須賀でジャズを気軽に楽しんでいただくことができました。

(3) 効率性

自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。

事業期間（日程）について、適切に実施することができました。

■事業期間について

《人材養成事業》

【事業番号1】: 本コンクール開催1週間前の審査委員長: 野島稔氏の急逝を受け、梅津時比古氏を審査委員長代行として、すべての審査を予定した事業期間（日程）で実施できました。

《普及啓発事業》

【事業番号2】: 対面練習と並行してリモート練習も行い、どちらも参加できる体制を整えたことで、コロナ禍でも練習活動を維持し、その結果、活動の根幹である2回の定期演奏会も含め、予定した事業期間（日程）で実施できました

【事業番号4】: 「劇場オープンデー」「バックステージツアー（一般/子ども）」とも、予定した事業期間（日程）で実施することができました。

【事業番号5】: ジャズ・ライブは当初6~7月を予定していましたが、学校側の要望を踏まえ、10月、11月に小学校と中学校各1校で実施しました。能のワークショップは当初9~11月の間で予定していましたが、学校側の要望を踏まえ、6月、7月に各1校ずつ小学校で実施しました。なお、予定時期を未定としていましたクラシック（ピアノ）コンサートは、学校側の要望を踏まえ、11月に実施しました。多くの子ども達たちが、ジャズ、伝統芸能の能楽、クラシック演奏と異なるジャンルに触れる機会を提供できました。

【事業番号6】: ジャズ3公演および地元の商業施設のライブイベントについても、予定した事業期間（日程）で実施する事ができました。

アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

■事業費について

事業費については、これまでのコロナ禍による事業中止などのブランクを踏まえ、集客やチケット販売の促進のため、基本的な事業費に宣伝費などの経費を当初より多く見込んでいました。当初7事業のうち2事業の申請を取り下げたことに加えて、予想以上に集客やチケット販売収入などが得られたことなどもあり、当初計画どおりに事業を進めることができた一方で、経費が抑制でき、当初の助成対象経費については下記のとおり当初助成対象経費の要望額に対して大幅に減額となりました。この点は、経費の見込みの精度向上を次回の反省とします。

《人材養成》

【第9回野島稔・よこすかピアノコンクール】 要望比: 101.49%

《普及啓発》

【横須賀芸術劇場少年少女合唱団活動】 要望比: 80.64%

【劇場オープンデー/バックステージツアー/子どものための劇場裏側探検ツアー】 要望比: 42.87%

【アーティスト派遣事業】 要望比: 69.69%

【ヨコスカジャズドリームスライブシリーズ】 要望比: 60.84%

《総計》 要望比: 51.76%

(4) 創造性

自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

今回の申請事業は、劇場の社会的役割を果たすためのビジョン（(1) 妥当性参照）に沿って、財団が培ってきた企画調整力、制作力、人的ネットワークを活かして製作してきた事業であり、幅広い年齢層を対象としています。参加型の事業においては、より多くの方が参加できる環境づくりのため、各所と連携し創意工夫をして取り組みました。地域の文化拠点としての機能を発揮できたと考えます。

【事業番号2】：横須賀芸術劇場少年少女合唱団

年2回の定期演奏会やプロとの共演ができる音楽性レベルを目指して活動するために、合唱界で活躍する指導者を招いて良質なレッスンを行う他、専門アドバイザーを招き、短期的な活動内容だけではなく合唱活動を通じた長期的な子どもたちの成長も考慮しながら活動内容を決定しています。令和4年度は、年2回の定期演奏会に加え、外部のオンラインセミナーのモデル合唱としての収録出演や、プロオーケストラの演奏会に出演するなど、昨年度に比べ団員により多様な発表の機会を提供し、団員のモチベーションの向上を図ることができました。

【事業番号4】：劇場オープンデー/バックステージツアー/子どものための劇場裏側探検ツアー

財団職員と舞台スタッフが共にアイデアを出し合いながら、施設の特性を活かしたバックステージツアーやオープンデーの制作を行いました。特にオープンデーでは、劇場施設の様々な場所で“出演”“鑑賞”“体験”が楽しめる内容で、公募で出演者を募集した他、劇場の人的資源である合唱団の指導者による声楽ワークショップや、地元で活躍する音楽家によるコンサート、障害の有無に関わらず楽しめるワークショップ等合計10以上のイベントを用意しました。また、小・中学生を対象とした「子どものための劇場裏側探検ツアー」では、昨年に引き続き、参加者がオリジナル演出の朗読劇の製作体験（照明・舞台・音響）を行い、その劇を鑑賞できる体験型ツアーを製作しました。普段劇場に足を運ぶ機会が少ない方にも気軽に劇場の施設やイベントに親しみ、舞台芸術への興味を喚起する機会を提供することができました。

【事業番号5】：アーティスト派遣事業

劇場主催公演等にゆかりのあるジャズ、ピアノ、能のジャンルで派遣を行いました。単なる鑑賞事業ではなく、各々の学校の要望を取り入れ、調整をしながらプログラムを決定することが特長となっています。特にジャズは横須賀の音楽文化と切り離せないジャンルであり、実施の際には“横須賀とジャズ”についての紹介も行ったほか、中学校では吹奏楽部との共演機会を設ける為、事前にアーティストとのリハーサルも実施しました。また、音楽鑑賞のみならず、一緒に演奏するなどの交流を図りました。特に中学校ではキャリア教育の観点から、アーティスト自身が音楽家を目指した経験談や学生からの質問を受け付け、音楽家という職業に対する認知・興味の向上を図りました。

【事業番号6】：ヨコスカジャズドリームス ライブ・シリーズ

今年度からスタートした新企画。多様なスタイルのジャズ音楽、ソロからビッグバンドまで多様な編成のジャズ音楽を提供することを目的としているため、これまでの経験や制作ネットワークを活かしつつ新規性のあるプログラミングを行いました。年に複数回主催でジャズ公演を計画することでジャズの多様な魅力を打ち出すことにつながりました。また、近隣の商業施設内でのジャズ・ライブ実施や市内ジャズイベントとの協力体制で、ジャズの街・横須賀を市内外の人にアピールできる内容となりました。

自己評価

地域の実演芸術等の振興など、地域の文化芸術の発展につながった（と認められる）か。

新型コロナウイルス感染症の影響により、限られた条件の中で事業を継続し、地域の人々が鑑賞や文化活動を享受できる機会を提供、環境整備に努めました。地域の文化芸術振興の灯を絶やさず、発展向上に寄与できたと考えます。特筆すべき点は以下の通り。

【事業番号2】：横須賀芸術劇場少年少女合唱団

横須賀市および近隣市町村の小学2年生～高校3年生まで100名以上が参加する本事業では、年間を通して指導陣と綿密な連携体制で活動を展開しています。当合唱団の魅力や良いところについて団員保護者および団員からの意見は、“学校とは異なる環境で異年齢の人たちと目標に向かって取り組めること”、“質の高い指導や練習環境・発表機会に恵まれていること”、“合唱団での活動のおかげで歌うことの楽しさや喜びを知ることができた”という点が多く挙げられており、一方で団員自身が生活の中で“積極的に考えて行動することができるようになった”等、子ども自身の成長に影響を与えた等の意見が寄せられています。また、コンサートの来場者からは、コロナの影響によりマスクを着用しながらの演奏に惜しみない賛辞が送られ、公演満足度も平均で96.4%となりました。次世代の文化の担い手の育成と合唱音楽の普及に貢献する事業です。

【事業番号4】：劇場オープンデー/バックステージツアー/子どものための劇場裏側探検ツアー

財団職員と舞台委託業者の連携により、施設の特性を活かしたバックステージツアーやオープンデーの制作を行い、合計1200名のお客様に来場いただきました。オープンデーでは、大劇場でパフォーマンスをする団体は公募で決定し、参加者からは地元の劇場でのハレ舞台に“楽しかった”“こんな大きな劇場で演奏できてうれしい”などの声が寄せられました。出演者に地元のアーティストを起用することで、より多くの市民がアーティストのことを認知し、次の鑑賞へとつながるような機会も創出し、市民の文化活動の支援、文化芸術を日常的に楽しむ機会の提供、次世代の聴衆の育成などに貢献しました。

【事業番号5】：アーティスト派遣事業

訪問した学校の教職員からは本事業のメリットを①プロの良質なパフォーマンスを生で体験できる、②音楽または総合学習、キャリア教育の授業として役立つ、③アーティストとの交流ができる、④経費的負担が少なく良質な点を評価する。という声が多く寄せられました。また、子ども達からのアンケート結果は、生演奏への驚きや感動、それぞれのジャンルの出演者や知識への興味、出演者との共演や交流への感謝、そこから自分が学んだこと等、多種多様な意見が寄せられました。これらのことから当事業は、地域の中で子ども達の文化芸術への興味や関心を広げ、学校教育の一端を担い、次世代の文化の担い手の育成につながる結果となっています。

【事業番号6】ヨコスカジャズドリームス ライブ・シリーズ

横須賀は、戦後ジャズ復興の地として知られ、ジャズは街の音楽資源です。当劇場では、今年度から1987年から続いてきた年1回のジャズ祭「ヨコスカ ジャズドリームス」の実施から年3回のライブ・シリーズへ移行することで、より多様なジャズ音楽を発信し、市内で活動を展開している横須賀ジャズ協会主催の「横須賀トモダチジャズ」イベントにも協力し公演を実施、さらに市内商業施設との協力体制でジャズ・イベントを企画開催するなど、劇場だけでなく地域におけるジャズ音楽の普及と振興、および地域の活性化に貢献しています。

(5) 持続性

自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展する（と認められる）か。

当財団は、横須賀市からの指定管理料収入を財源としていますが、自主財源として利用料金収入（施設利用料、入場料）、助成金・企業等からの協賛金のほか、公的団体からの助成金等を獲得しながら、指定管理料のみに頼らない事業実施に努めています。事業実施の重点はおさえつつ、経費縮減および今回のような助成金を活用し、自主財源を安定的に維持することで組織活動の持続性へ繋がると捉えています。

今回「人材養成事業」の【事業番号1】第9回野島稔・よこすかピアノコンクールにおける若手演奏家のステップアップとキャリア支援及び地域市民へ彼らの質の高い演奏を気軽に鑑賞できる機会の提供。「普及啓発事業」の【事業番号2】横須賀芸術劇場少年少女合唱団活動、【事業番号4】劇場オープンデー、バックステージツアー、子どものための劇場裏側探検ツアー、【事業番号5】アーティスト派遣事業における誰もが芸術文化を享受でき、創造するための支援や、次世代への投資である育成事業。【事業番号6】「ヨコスカ ジャズ ドリームス ライブ・シリーズ」におけるジャズの普及事業や地域連携事業、そしてこれらの事業は、当劇場の下記ミッション、ビジョン（様式1-1に記載）を実現した事業となります。

それらが、本助成金をもとに助成の趣旨を踏まえ、充実した事業内容のもと実施できたことは、PDCAサイクルの要素（事業計画の再検討、顧客アンケートの活用、次回への改善点の検討など）を含め、組織力向上および組織活動の持続的な発展のための実績を積み重ねることができたものと考えます。

《社会的役割（ミッション）》 ※【 】は、該当する事業番号

①地域文化の拠点としての役割【人材育成：事業番号：1、普及啓発事業：2・4・5・6】

②潤いのある豊かな市民生活と地域社会を実現するための役割 【人材育成：事業番号：1、普及啓発事業：2・4・5・6】

③横須賀市の豊かな未来を創るための役割 【人材育成：事業番号：1、普及啓発事業：2・4・5・6】

《ビジョン》財団が地域の芸術文化振興の拠点として役割を果たすための方針

①創る・発信する【普及啓発事業：2・4・5・6】

②集う・交わる【人材育成：事業番号：1、普及啓発事業：2・4・5・6】

③育む・支える【人材育成：事業番号：1、普及啓発事業：2・4・5・6】

④つながる・応える【普及啓発事業：2・4・5・6】